

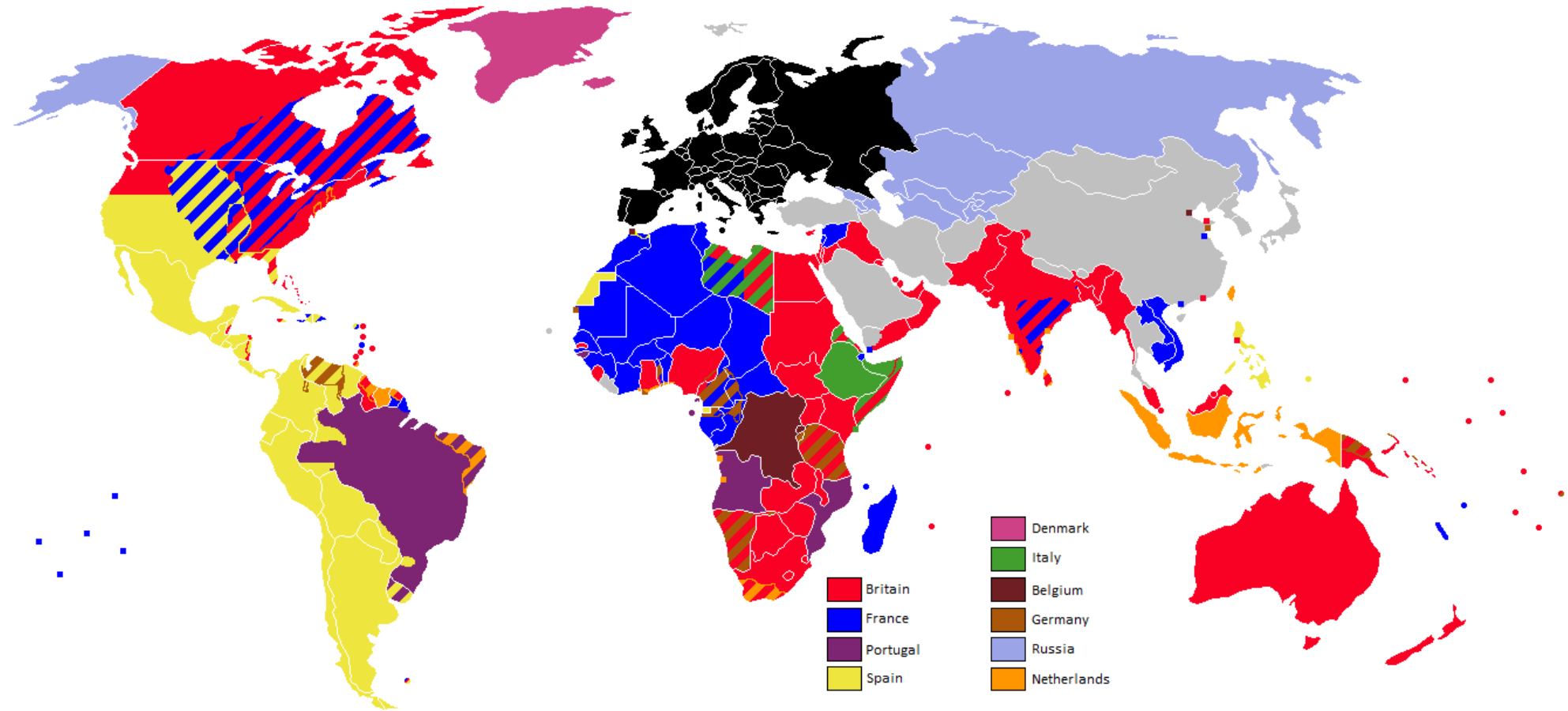
近代化とキリスト教

経済学部教授
大西晴樹

I

近世の帝国主義とキリスト教

植民地とキリスト教



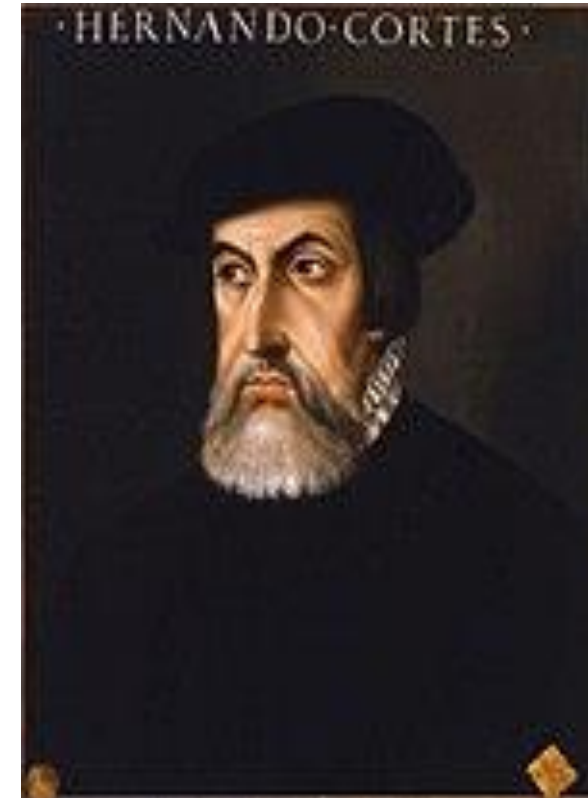
大航海時代



- 1492 コロンブス「インド」を「発見」: 実際はバハマ諸島
- 1498 ヴェスコ・ダ・ガマ 喜望峰を回り、インドに到着
- 1520 マゼラン 南アメリカ南端の水路を発見
- スペイン、ポルトガルよる「新大陸の発見」、「ヨーロッパの拡大」

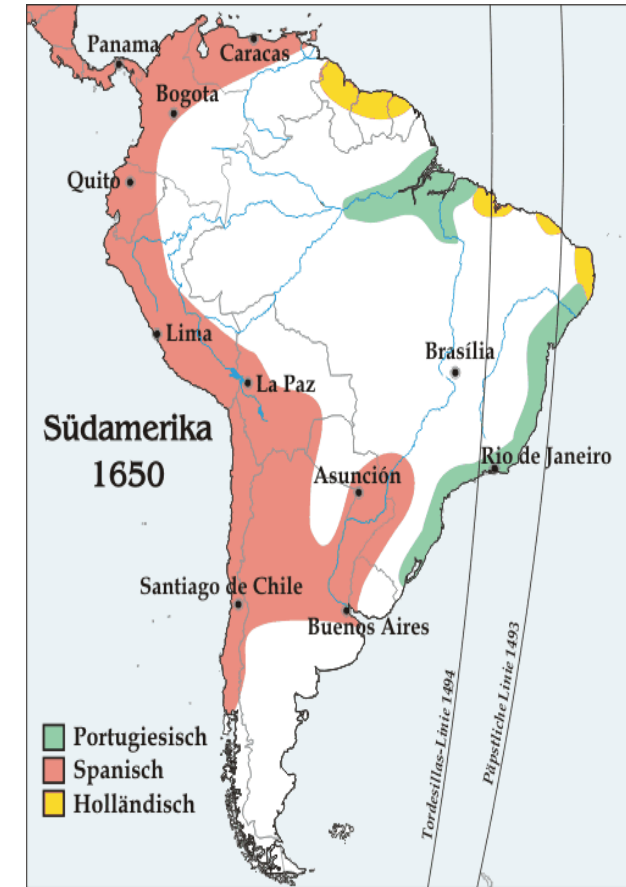
コンキスタドール(征服者)

- 1500 スペインのフランシスコ会がラテン・アメリカに到着 10年後にはドミニコ会士も加わる
- 1520年代には西インド諸島に4つの司教座 1540年代に数百万人の改宗
- 1521 コンキスタドールのコルテスがアステカ(メキシコ)文明を滅ぼす(人物画)
- 1533 同ピサロがインカ(ペルー)文明を滅ぼす(180人の兵士、37頭の馬、火器)

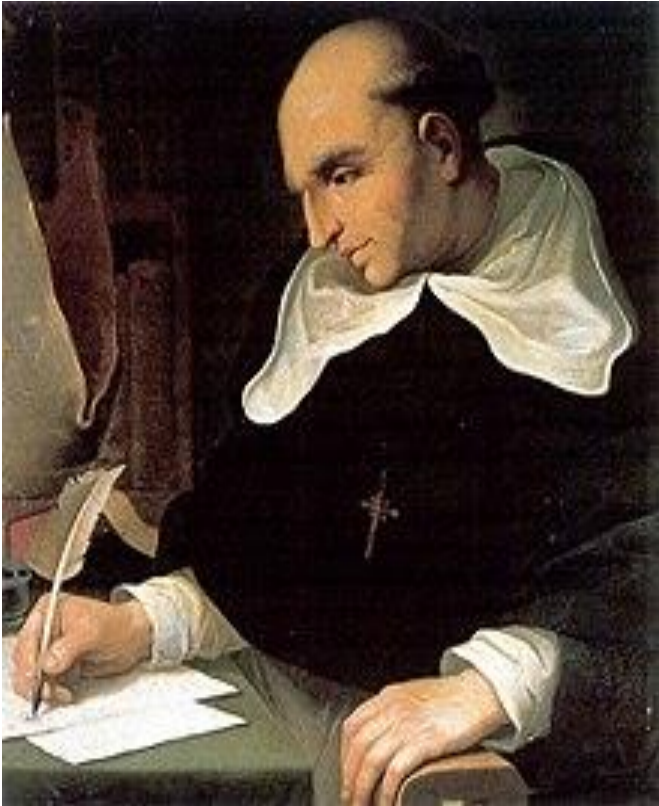


ポルトガル、スペインの植民地支配

- 1493 教皇子午線(アレクサンデル5世)新大陸をスペイン国王に、アジアとアフリカをポルトガル国主に与える
- 「統治権」(インペリウム)は両国の国王に与え、「領有権」(ドミニウム)を異教徒に認めない
- 教皇は、両国の国王に布教保護権(パドロード権)を与える。両国王がその支配地域での司教や司祭の任免権や宣教師を派遣する義務をローマ教皇から託される代わりに、宣教のための諸活動にかかる負担を国王が負担する



ラス・カサスによる植民地奴隷制批判



1512 キューバ島制服軍の従軍司祭 インディオ虐殺を目撃

- 1514 自分のインディオ奴隷を解放し、エンコミエンダ農園を放棄
- 20年ぶりに故国に帰り、国王カルル5世に『インディアスの破壊についての簡潔な報告』(1540)を提出
- インディオの保護とエンコミエンダ制度の段階的廃止を盛り込んだ「新法」(1542)が発布されるが、現地では骨抜きにされる

反対宗教改革のインパクト

Ignacio López de Loyola(1491-1556)

- イエズス会は1534年にパリ大学の神学生イグナチオ・デ・ロヨラを中心に結成され、パウルス3世の認可を受けた
- 騎士であったロヨラはイエズス会を「戦闘的な組織」と意味づけ、「教皇の望むところならどこにでも赴く」という情熱に燃えるグループとした(モンマルトルの誓い)
- 会員たちはロヨラの著作『靈操』を手に世界に派遣され、修道者として従順、清貧、貞潔という三つの誓願を忠実に守ることによって改革された教会の姿を人々に示すことになった



イエズス会士 フランシスコ・ザビエル



- 1534 バスク同郷のロヨラら6名とイエズス会を設立し、神への「軍隊のごとき」服従を誓う
- 世界宣教を目的としていたイエズス会士として、インドのゴアで宣教監督
- 1549 鹿児島に上陸、平戸、山口、大分で2年間伝道 その後カトリックは30年後には約20万人
- 1582 大友、大村、有馬氏少年使節をローマに派遣(天正遣欧使節)
- 1587 秀吉「バテレン追放令」
- 1591 秀吉「禁教令」

イングランド宗教改革と反カトリック意識

- 1534 ヘンリー8世が国王至上法を発布 キャサリンとの離婚問題が発端
- イングランド人のアイルランド入植
- 1559 エリザベス1世が正式にローマと訣別
- 1588 アルマダ海戦
- 反スペイン＝反カトリック意識
- スペインの西インド諸島の植民地化の前線基地としての北アメリカ植民地



アイルランドの植民地化



- 「ピューリタン革命の財源」としてクロムウェルのアイルランド全島植民地化
- プロテスタント・イングランド人はカトリック・アイルランド人の不在地主
- 選挙権、被選挙権の制限、大学入学資格の制限、3P
- 1919 アイルランド共和国独立

北米植民地の独立

- ジョン・ロックは、1669年の『キャロライナ憲法草案』において、すべての有神論者への寛容を説いた
- 奴隷制を肯定したが、『統治2論』（1689）において、「領有権」の根拠を「信仰」ではなく、「労働」に置いた
- 1776 アメリカ独立宣言
- 1833 イギリス奴隷制度廃止法
- 1863 アメリカ奴隷解放宣言



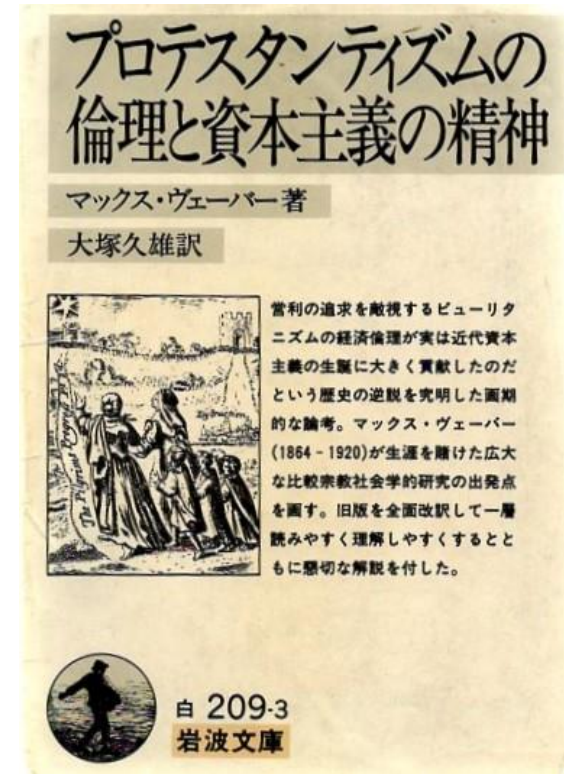
Ⅱ

近代化の理論：マックス・ヴェーバーの「プロテスタンティズムの倫理テーゼ」を中心に

ヴェーバーは、禁欲的プロテスタンティズムに「近代化」の推進力を見た

Max Weber(1864-1920)

1904-5年、1920年改訂、1938年翻訳



ヴェーバーの方法

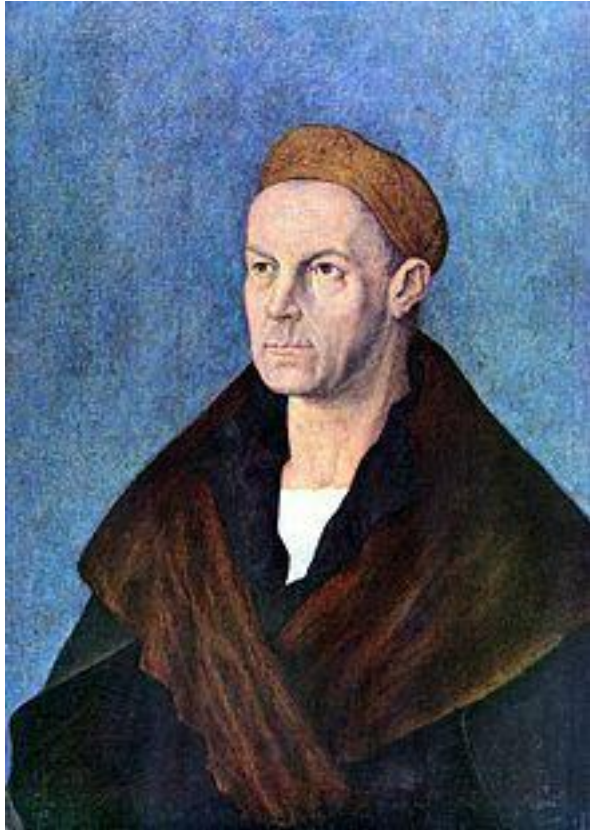
- 宗教と経済は、一見関係のなさそうな、むしろ「水と油」のよう
- ヴェーバーは、宗教と経済そのものではなく、プロテスタンティズムの倫理＝宗教と、「資本主義の精神」というエートスの「親和的」関連を問題に
- 「エートス」(Ethos)とはギリシャ語で、「和音」「精神的雰囲気」「大衆の行動様式」「大衆心理」などと訳される
- 「資本主義の精神」とは、合法的職業労働によって、最大利潤獲得を目的とすることは各人の使命であり、義務であるとさえ考えるあり方
- ヴェーバーは、このエートスは、「資本家の精神」(a capitalist's spirit)ではなく、労働者も共有する「資本主義の精神」(the Spirit of Capitalism)であり、宗教改革後のプロテスタンティズムに由来すると考えた

近代化以前、「伝統主義」のエートスが支配

- その日暮らし的な生活態度
- 安逸選好、反転労働供給曲線
- 武士は食わねど高楊枝
- 宵越の金は持たぬ
- 聖月曜日
- Punctual(定刻通り)とフィリピン・タイム
- 宅急便が不思議でならない
- 絵画は「ビール通りとジン横丁」
(W.ホガース・1751)から



大商人、近代への移行に対応できなかった



- 経済史では、前期的商人資本、
- いわゆる「政商」
- 西洋では、フィレンツェのメディチ家、アウグスブルクのフッガー家等の豪商が近代資本主義後も存続しなかった
- 日本では、越後屋（三井）、鴻池、住友等を除いて、豪商は明治維新後も存続しなかった
- 肖像画は、アルブレヒト・デューラーによる第3代フッガー

ルターの宗教改革

- 1517年10月30日 ヴィッテンベルクの城門教会で95箇条の提題を発表
- 教皇レオ10世(実はメディチ家の次男坊)の発行する贖宥状(免罪符)を批判
- 「信仰のみ」、「聖書のみ」を強調、結果として「聖職身分」と「結婚(市民)身分」の差別に対して「万人祭司」を打ち出す
- 肖像画は、ルーカス・クラナッハによる(1529)



ヴェーバーはルターの“beruf”(召命)に注目

- ルターは、宗教改革が、再洗礼派運動や農民戦争を引き起こし、農民が武器を執ることに反対し、この世の権威への従順を説く
- ルター派教会は、領主の教会として、領邦教会(ランデス・キルヘ)形成し、ドイツ諸邦はカトリック教会とルター派教会に分裂
- 但し、ルターは、万人祭司の教えから、この世の身分や勤めに対しても、聖職者同様“beruf”(召命)という言葉を使うようになり、修道院ではなく、この世の身分や勤めにも倫理的光輝を与えた
- 現代のドイツ語berufは、単に職業を意味するに過ぎないが、同義語の英語のcallingには、この世の働きにも天職や召命という意味が込められる
- 「この世の働き」は、「労苦」ではなく、むしろ「天職」という意識への転換

カルヴァンの予定説



- スイス、ジュネーブのフランス人宗教改革者
- 『キリスト教要綱』を執筆。神の恩恵の絶対性を示す予定説は、この書物の第三版から
- カルヴァンの教えは、改革長老派の神学に継承され、ネーデルラント、イングランド、スコットランド、ニューイングランドに広がる
- 肖像画は、ハンス・ホルバインによる

ヴェーバーは、カルヴァンではなく、カルヴァン主義の予定説に注目

- 予定説は、神は人間を選びと滅びへと定めたという教え
- カルヴァンは、敬虔な神学者として、信仰を知識や堅信として捉え、自らの選びに不安を覚えることはなかった
- ところが、カルヴァン主義を受け入れたその弟子と信徒層は違った
- 自らの選びに不安と恐怖を覚える者が多く、信仰と救いの確かさを区別し、選びを信徒層の手の届くところに置いた
- 信仰とは、イエスの十字架と復活による自らの罪の贖いであるが、それを信じるだけでなく、救いの確かさを自ら実験して証明すること
- これは、個々の善行を積み上げて救いを手に入れるカトリックの行為義認とは異なり、主体的、一貫的、かつ実践的な結果を伴った

「救いの確かさ」を証明する

- ウィリアム・パーキンズ(1558-1602)
- イングランドのピューリタン説教者、ケンブリッジ大学講師
- 実践的3段論法：救いの証明「結果を持つものは信仰を持つ」という命題 「私は結果をもつ」という内省的行為によって証明し。「それゆえ私は信仰を持つ」という(間違いなき)結論に導く。
- 召命論：一般召命と特殊召命



ヴェーバーの見た「ウェストミンスター信仰告白」(1646)

内面的孤独化

- 人間を選びと滅びに定める専横なる神は、人間に内面的孤独化をもたらした
- 人間はこの恐怖から逃れるために、救いの確かさの証明としての職業労働に励むか宿命論を受け入れざるを得なくなる
- この頃から心の病、ノイローゼが生まれてくる

被造物神化の拒否

- 人間の救いにとって、補助的な一切の手段、牧師、教会の聖礼典など、一切が当てにならない
- 人間は、神ならざる物や他人を当てにすることなく、自立せざるをえない(魔術からの解放)
- 非人間的な神と、非人格的な、事象的な人間関係、漱石はこれを「非人情」ではなく「無人情」という

R. バクスターの禁欲的職業労働論

リチャード・バクスター(1615-1691)
ピューリタン牧師

『基督教指針』(1973)や決議論(カズイ
ストリー)において、信徒に聖徒の行動指
針を示す



- ルターは、中世的な社会有機体説を引きずっており、温かい人間関係である隣人愛を大切にするために、転職を認めず
- バクスターにとって転職の基準
- ①道徳性
- ②社会全体にとっての有用性、すなわち、職業の専門性
- ③収益性、すなわち、売り上げは隣人愛の有力な証明

「資本主義の精神」ベンジャミン・フランクリン

- Benjamin Franklin(1706-1790)
- ヴェーバーは、中世の大商人と異なり「資本主義の精神」の持ち主として描く
- 『若き商工業者への助言』
- 時は貨幣なり、信用は貨幣なり
- 貨幣は繁殖して子を産むもの
- 支払いのよいものは他人におお財布にも力を持つ
- 支出も収入も正確に記帳せよ
- フランクリンの思想には、「産業的啓蒙」も指摘できる



エルンスト・トレルチとヴェーバーの教会類型論

キルヘ(教会)型教会

- その地域に住むものの全員が信仰者(生まれながらのクリスチャン)
- 中央集権的、聖職身分制的な位階制
- 統治権力と結合しやすい
- 血縁・地縁共同体を包摂して、伝統主義に固執する傾向

ゼクテ(教派)型教会

- 信仰による有資格者だけから構成される団体(信仰者の教会)
- 各個教会の主権尊重
- 教会員同士による道徳的訓練
- アメリカ合衆国で発展
- 教会と国家の分離、個人の「信教の自由の尊重」→人権保護の体系としての近代国家の誕生

西洋近代への批判：従属学派



- 1960年代後半ラテン・アメリカの社会科学において登場した、既存の開発理論・開発政策に対する批判
- 資本主義世界経済は中心と周辺から成り立っており、周辺の国々は中心の国々に従属し、さまざまな資源の搾取を受けているという理論
- 例えば、Gフランクは、「低開発は未開発ではない」(under-development is not undevelopment)という命題突き付けた

I. ウォラーステイン：資本主義世界システム

- 大航海時代の16世紀から世界は、版図帝国や資本主義と社会主義から成るのではなく、資本主義世界システムという単一のシステムから成立している
- このシステムは中心国家、半周辺国家、周辺国家の3群に分かれ、東アジア諸国だけが例外的で、変化はない
- 富は、「不等価交換」を通じて、周辺国家から中心国家に吸収される
- 16世紀オランダ、19世紀イギリス、20世紀アメリカという覇権国家が支配してきた



考えてみよう(1)

- ①近世カトリック宣教の特徴とはなにか？
- ②カトリック宣教とジョン・ロックの所有権の相違とは何か？
- ③マックス・ヴェーバーの方法論の特徴とは何か？
- ④ルターの歴史的役割とは何か？
- ⑤カルヴァンとカルヴァン主義の違いとは何か？
- ⑥近代民主主義の「信教の自由」はどうして実現したか？
- ⑦従属学派、世界経済システム論は何を批判したか？

Ⅲ

プロテスタント宣教団体の成立

プロテスタント宣教の特徴

- 産業革命以降、イギリス、アメリカの資本主義国においては、国家から独立した宣教団体が各教派によって設立され（海外伝道局・ミッションボード）、宣教師が世界各地に派遣された
- もちろん、現地の植民地当局から妨害される場合もあれば、アフリカやその他の地域においては、イギリスの植民地主義と基督教の宣教が結びついた例も見られる

「近代世界宣教の父」: ウィリアム・ケアリ



- 30年にわたってインドで宣教した。靴屋、バプテストの信徒伝道者、独学でラテン語、ギリシヤ語、ヘブル語、オランダ語、フランス語、イタリア語をマスター。クック船長の『航海記』を読む
- 1792年『異教徒の回心のために手を尽くすことはクリスチャンの義務であるか否かについての考察』を著し、年会で世界宣教のアピール→「イギリス・バプテスト伝道協会」(BMS)誕生
- 93年家族と共にインドに向けて出発。最初の6年間、ベンガルで藍工場の監督をしながら、ベンガル語やサンスクリット語を学ぶ。1799年、コルコタに近いセランポーで伝道

ケアリの五つの方針：世界宣教に影響

- 1あらゆる可能な方法を用いて、広範に福音の説教を行うこと
 - 2現地語の聖書翻訳を早く行い、説教の支援をすること
 - 3可能な限り早く、教会を設立すること
 - 4未信者の背景や思想を十分に研究すること
 - 5現地人の教職を早期に育成すること
-
- 1800 待望のインド人受浸者第一号が起こされた。
 - 1801 仲間のウォードの協力を得てベンガル語の新約聖書を出版する。
 - その後ケアリは、コルコタに新設されたフォート・ウィリアム大学の東洋語学の教授を30年近く務めた。ベンガル語訳聖書の全訳、6か国語の聖書の全訳、24の部分訳を監修した。とくにサンスクリット語の聖書翻訳がなされると、カーストの第一階級であるバラモン層が我先にと読むようになった。インドには一家の主人が死ぬと、その妻も殉死するサティという習慣があり、ケアリたちは反対運動をおこし、1829年にこの習慣も廃止された。

ロンドン宣教会(1)

ロバート・モリソン(1782-1834)の中国伝道

1795年 ロンドン宣教会(LMS)結成

- 木の靴型職人の子、長老派。1802年、20歳の時宣教師の召しを受け、ロンドンのホックス・アカデミーとボーグ・アカデミーで学ぶ
- 1807年 広東に渡る 東インド会社の通訳のかたわら、聖書の中国語訳
- 1813年 新約聖書
- 1819年 旧約聖書



ロンドン宣教会(2)

W.H.メドハースト『英和和英語彙』(1830)

ウォルター・メドハースト(1796-1857)の中国伝道

- 中国に渡る準備のためにロンドン宣教会の経営するハックネー大学で3年間勉強 バタビアでキリスト教書店を開く。1830年『英和・和英語彙』を出版。

48	
Evening	Yo-i
Twilight	Fi kfoo-re
Dusk	Kfoo-re
Dark	Ya-mi
Night	Yor; Ya
Lute at night	Yohoo-ka
Midnight	Yo-na-ka
All night long	Yo-mos'gu-ra
All day long	Pine mos'
Day & night	A-ke kfoo-re
Yesterday	Kino-foo
Do.	Sakf'zits'
Day before do.	Is-sakf'zits'
To-morrow	A kfoo'r'fi
Do.	M'ya-oo nits'
Day after do.	A-satte
Do.	M'ya-oo go nits'
New year's day	To-si no ha-zime
Birth day	Dan sya-oo nits'
Lucky day	Yeki fi
Unlucky day	A-si-ki fi
Every day	Fi go-to
Hour	To-ki, Si
Moment	Ku-ta to-ki
Do.	Mata-taki'-ma

17 Religion.

Heaven	Ten
A god	Ka-mi
Buddha	Foto-ke, Boots'
Amida	A-mi-da
Shikha-mana	Si-yaka moo-mi
Kwan-yin	Kf'wan on
Joo-lae	Ni-yo rui

49	
Celestial gods	A-mats' ka-mi
Terrestrial do.	Kfoo-nits' ka-mi
God of thunder	Ikads'si no ka-mi
God of the wind	Ka-se no ka-mi
God of fire	Pi no ka-mi
Kitchen god	Kama-do no ka-mi
River god	Ka-wa no ka-mi
Gods of the soil	Dai zin
Topical gods	To ko-oo zin
Demi-gods	Bo sats'
Dragon king	Rioo wa-oo
Ghost	Yu-oo rei
Devil	O-mi
Soul	Kon bakf'
Hell	Tai kokf'
Religion	O-si-he
Worship	O-ga-me
Sacrifice	Mats'ri
Altar	Ya-si-ro
Ancestral do.	Senboo no ya-si-ro
Oratory	Ki ta-oo zyo
Transgression	O-tsi-do
Sin	Tsoo-mi

18. Abstract and miscellaneous words.

Abhorrence	Oo-ra-mi
Ability	Wa-za, No-oo
Addition	So-yur mo-mo
Affair	Koto
Affection	On ai, Megf'mi
Age	To-si bai
Amity	Wa-bokf'
Do.	Moots'-ma-zi
Answer	Fenta-oo

ロンドン宣教会(3)

カール・ギュツラフ(1803-1851)の中国伝道

- 1826 オランダ海外伝道会の宣教師としてバタビアへ
- 1831 広東でモリソンと知り合う、転籍
- シンガポールのイギリス総督府の通訳であるギュツラフは、最初の日本語聖書『約翰福音之伝』(1837)印刷、出版
- 同年米国商船モリソン号、ギュツラフと音吉ら7名の日本人漂流民を乗せて江戸湾航行→蛸社の獄



中国内地伝道会：ハドソン・テラー



- ハドソン・テラー(1832-1905)ロンドンにて医学を研究して、中国宣教の準備
- 1854 22歳の時に、中国福音伝道協力会の宣教師として上海に到着した
- 1865年、中国内地伝道会を設立
- ①伝道の対象地を中国内部へ「イギリスの軍艦の弾丸の届かないところ」
- ②直接の目的は福音伝道
- ③宣教師はなるべく中国化を
- ④現地決定の徹底化
- ⑤伝道会の資金はすべて自由献金
- 30年後の1892年641名の宣教師を擁するほどに発展。雲南省のモン族、カレン族に伝道
- 国民党の保護により1916年には、1077名の宣教師フェイス・ミッション(信仰による宣教団体)。

アメリカ合衆国による世界宣教

- 1810年 アメリカン・ボード誕生 当初はネイティブ・アメリカンへの伝道
- ジョサイア・ストロング(1847-1916)の『わが祖国』(1885)は、ストウ夫人の『アンクル・トムの小屋』以来のベストセラー
- 「神はわれわれ(アングロ・サクソン民族)を大陸に送り込んで、世界伝道のための訓練を行った。この優れた民族が膨張し、繁栄するのは神の約束である。今やアメリカ大陸に向けられた明白な宿命は世界に対する宿命となった。これが摂理であり、進化の論理である」(世界に対する選ばれた民としての使命感)
- 現在でも、この選民思想は、戦争遂行の思想的背景をなす

ジョン・エリオット:「ネイティブ・アメリカンの使徒」

- 1676ー76年フィリップ王戦争
25000人のネイティブ・アメリカンの人口が1500人へ
- ジョン・エリオット(1604-1690)ボストン郊外に「祈りの町」を建設
- 1500人のネイティブ・アメリカンが移住。
- 1661年にアゴルギン語の新約聖書、2年後に旧約聖書
- しかし、フィリップ戦争で、ネイティブ・アメリカンは強制的にボストン湾上の小島に収容されるか、奴隷となる

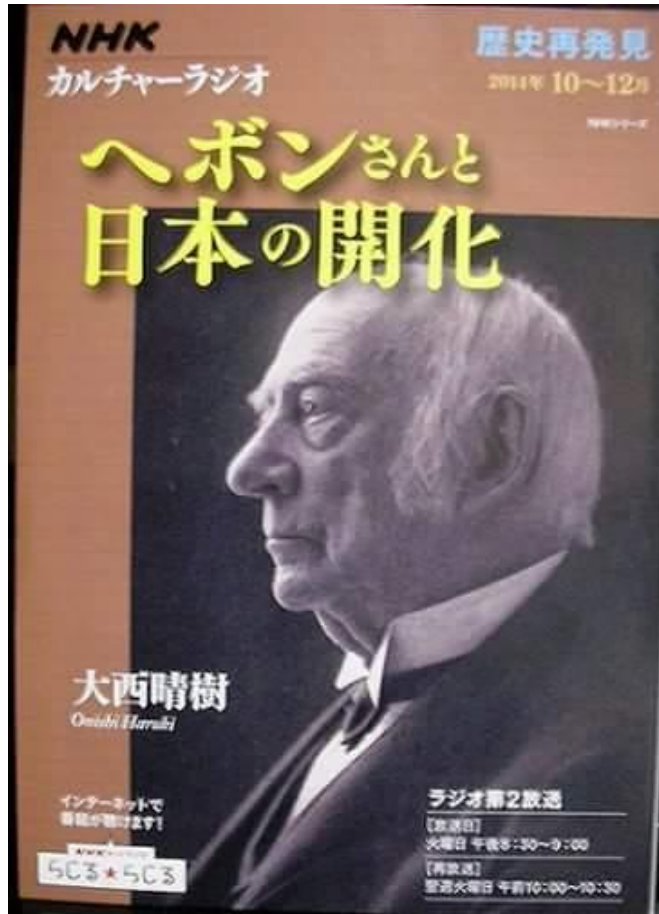


アドニラム・ジャドソンのビルマ伝道



- 1812 アメリカン・ボードからインドに派遣 ケアリの影響で上陸後にバプテストへ
- 1813 東インド会社の反対によりビルマのラングーンへ
- 1831－32 山岳民族のカレン族に伝道
- 1835－36 聖書のビルマ語訳完成

東アジア諸国の開国、開教



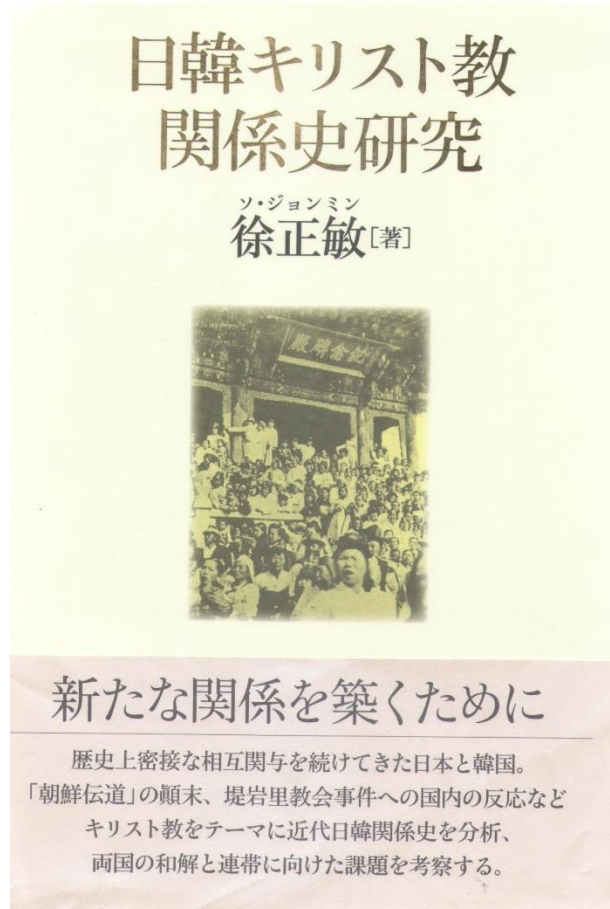
- 中国は、1587年ヴァリニャーノ(イエズス会)後に禁教、1807年モリソン(ロンドン伝道会)
- 韓国において、カトリックは1784年平壤にイスンフンの礼拝所、プロテスタントでは1887年にアンダーウツドの長老教会が設立される
- 日本は、日米修交通商条約、5港開港の際に、1859年に長崎にリギンズ(米国聖公会)、神奈川にヘボン(米国長老会)、カトリックは、プチ・ジャン(パリ宣教会)が隠れキリシタンと1862年に大村天主堂で再会。キリスト教は1874(明治6)年に黙許される

エディンバラ世界宣教会議(1910)

- 「福音を非キリスト教世界に伝える」
- アメリカとイギリスのプロテスタント教会を中心に世界から1300人が集まり、「若い教会」の意見を聞くこと
- 継続委員会の議長は世界YMCAの理事長をしたアメリカのメソヂスト信徒のジョン・モット(ノーベル平和賞受賞)
- 日本からは明治学院総理井深梶之助らが参加、「キリスト教大学」設立を訴え、東京女子大学が設立された
- インド、アフリカはイギリスが、レバノン、中国、日本はアメリカが後見人となって教会、大学への支援が続いた



日本の植民地伝道、韓国を例に



- 1905 日韓保護条約 総督府
- 1909 伊藤博文暗殺
- 1910 日韓併合
- 1919 三一独立運動
- 日本基督教会：在朝鮮日本人に向けての伝道、そこを基地として朝鮮人伝道 教会8、会員300人
- 日本組合基督教会：総督府の庇護のもとに積極的伝道 教会38、会員2800人 三一独立運動後朝鮮同化主義は行き詰まる

キリスト教学校の神社参拝問題

- 1931 満州事変勃発
- 1932 上智大学靖国神社不参拝問題
- 1933 教育同盟は、文部省の見解を踏襲して「神社参拝は教育問題であって、宗教的礼拝でない」との見解
- 1934 台南市長老教中学の神社不参拝問題
- 1935 平壤市の崇実(スンシル)大学校等10校が廃校に向かう スンシルは1938年に廃校になり、1954年にソウルで再建
- 韓国のキリスト教会は、神社参拝問題で、2000人の信徒が逮捕され、200の教会が閉鎖、50人が獄死



＊白馬の像 スンシル大学のシンボル。ヨハネ黙示録6章2節に登場する勝利の馬であり、騎馬民族としての高句麗（その首都はピョンヤン）の民衆の開拓者精神を象徴している

キリスト教学校明治学院の留学生



- 明治学院は1900から1944まで、普通学部(中学)だけで、中国から7人、台湾から139人、朝鮮から177人、不明26人の留学生
- 留学生には、大極旗を考案した朴泳孝(パク・ヨンヒョ)、東京で独立宣言文を起草した李光洙(イ・ガンス)、詩人金東仁(キム・ドンイン)等
- 写真は、2011年留学生で初めて本学名誉博士号に輝いた王金河医師。長年台湾の風土病「烏脚病」患者の治療と社会復帰に尽力

日本宣教の特徴(1)

- 1960年代：インドネシアには9500万の人口400万のクリスチャン4%。しかし数地区に集中。スマトラ中部のバタク族 その人口2百数十万人の大半がキリスト教徒。スワベシ島のミナハサ族約50万人がすべてキリスト教徒である。彼らはイスラムでなく、原始的シャーマニズムを信じ、血縁共同体を支える精神的支柱が弱かった
- ビルマには100万のキリスト教徒。しかし、カレン族を初めとする山岳民族
- インドには1000万のキリスト教徒。原則として最下層のいわゆる「不可触賤民」
- マレーシアのキリスト教徒はほとんど華僑 イスラムを信奉する支配するマレー人にはキリスト教は受け容れられず

日本宣教の特徴(2)

- 札幌バンド:「イエスを信じる者の契約」、熊本バンド:「奉教趣意書」は血判状や盟約者の閉鎖的集団によって成されたのではない
- 仏教は「出家」という言葉が示すように、先祖崇拝＝祖先の祭祀と結びつくことによって、家の宗教となり、寺は檀家を基盤として形成・維持されるようになった
- これに対し、神道はシャーマニズムから発展し、幕末期に神社神道へと展開、もともと部落の守護神信仰を中心としていたから、部落共同体を基盤とし、氏神・氏子の関係で形成・維持されてきた
- すなわち、仏教は「血縁共同体の信仰」、神道は「地縁共同体の信仰」。
- 共同体規制
- 日本のキリスト教は、共同体規制が動揺したさなかに導入され、動揺の中で新しい生き方を模索する個々人の関心をひきつけた。

日本における基督教の影響

- 1927年の太平洋問題調査会のアンケート(2100名回答)

項目	第一次大戦前	大戦後
• 女子教育の発達	65%	53%
• 公娼廃止運動	57%	80%
• 禁酒運動	55%	66%
• 救貧社会事業	52%	61%
• 男女の交際	46%	56%

考えてみよう(2)

- ①プロテスタント世界宣教の特色とは何か？
- ②ウィリアム・ケアリーの5つの方針から何を学ぶか？
- ③ハドソン・テラーの中国内地伝道の特徴とは何か？
- ④アメリカ合衆国の世界宣教の特徴とは何か？
- ⑤日本の宣教風土の特徴とは何か？
- ⑥戦前の日本人キリスト者が植民地である台湾や朝鮮半島のキリスト者に対して神社参拝を強要したことについてどう思うか？